

GIFTS 2018

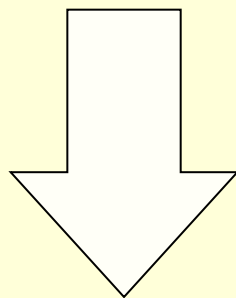


比較文化の視点から 交通安全を考える

佐野 充 (日本大学教授)

経済活動や日常生活行動における

交通機関による空間移動



衣食住と同レベルの
「生活様式の決定因子」

前提

- 交通に関する認識は、必ずしも地球規模での共通性があるとは言えない。
- 特に、交通安全に関しては、交通の発展段階によってレベル差が存在している。
- さらにそれぞれの国の持つ民族性・歴史性・政治風土・モラル・自然環境などによって相異がある。
- 特に、交通モラルは、交通に関する文化の成熟度と密接な関係があり、交通安全教育の普及と効果も同様な関係がある。

文化の視点からの「交通安全」

- 文化とは；人間活動の有形・無形の時間的空間的な所産。(伝統・習慣,造形物等の所産)
- 交通とは；人間活動の利便性を扶助する有形・無形の所産。
- 安全とは；人間活動を快適にするための有形・無形の所産。
- 「交通」・「安全」を文化として捉える；時間別・地域別に歴史的事情、自然社会環境、ものの考え方・見方などの視点から捉える。
- 交通安全の文化的把握；将来に向けての示唆。

2010横断 調査結果

交通先進地域：日本 ドイツ カナダ

道路網や市街地の整備進展.

基本的な自動車交通環境ができあがっている.

交通発展地域：タイ

市街地を中心とした交通インフラの整備のおくれ.

横断歩道を渡る者が多い;安全な歩行環境ができあがっていないことが背景.

ただし、ベトナム:

「法律・ルールを守って、横断歩道を渡る」回答30%;

社会主義国における社会的ルール遵守の厳しさの反映か？

目 標

- 快適なモビリティ社会を確立するために

「交通安全文化」(Traffic Safety Culture)

に焦点を当て、

日本と世界の国々との比較分析から、

交通安全を文化として認識し、

求めるべき交通安全文化の姿を描く。

交通安全に対する意識

- 交通安全教育：
目的型の行為としての一面；強制、調整、
制御の色彩がある。
- 交通安全知識低い者や教養しか持たない者、
社会的弱者など：
教育の必要性を理解しないままに「教育」を
受けると強制として捉えられ、心理的・精神
的な負担になる(場合がある)。

どうしたらよいのか

- 交通安全：より幅広く社会的に普及・啓蒙していく
- 「教育」よりももう少し緩やかで柔らかな形のものがよいのではないのか
- それを「文化」というキーワードに求めることができるのではないのか。

文化とは：

伝統や風習と同じように、地域に根ざしたものの
無私で献身的な行為の積み重ねと所産
伝え残そうとする地域の全体システムによって形
成されたもの。

最良の「交通安全」の推進

- :交通安全を生活の一部として、無私の状態で認識し、行動実現できるものとする
- 歩行空間としての都市に自動車交通環境を形成すること

今や

- 交通先進地域である日本の交通安全を文化として認識し、広く伝えていく必要がある
- 特に、日本と同じような歴史的な交通発展をしているアジア地域の交通環境づくりを文化的な視点を持って推進していくことが重要である